

平成25年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	独立行政法人国立長寿医療研究センター施設整備費			担当部局庁	医政局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成22年			担当課室	国立病院課	課長:古川夏樹				
会計区分	一般会計			政策・施策名	I-4-1 政策医療を向上・均てん化させること					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第46条			関係する計画、 通知等	平成22年11月26日厚生労働省発医政1126第13号「平成22年度独立行政法人国立長寿医療研究センター施設整備費の国庫補助について」					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	独立行政法人国立長寿医療研究センターの施設の整備のために要する経費を補助することにより、同センターの業務(加齢に伴って生ずる心身の変化及びそれに起因する疾患であって高齢者が自立した日常生活を営むために特に治療を必要とするものに係る医療に關し、調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供、技術者の研修等)の円滑な実施及び同業務の推進に資すること。									
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	独立行政法人国立長寿医療研究センターが施工する施設の整備。平成22年度からの整備内容(予定を含む)は以下のとおり。 ・実験動物棟整備(平成22年度～平成24年度) ・教育研修棟新築整備(平成25年度～平成27年度(予定))									
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求				
	当初予算				236	137				
	補正予算	1,058								
	繰越し等	▲ 1,058	433	625						
	計	0	433	625	236	137				
	執行額	0	433	625						
執行率(%)		100.0%	100.0%							
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)			
	(独)国立長寿医療研究センターが施工する施設の整備の完了		成果実績	—	・実験動物棟整備(平成22年度～平成24年度)		—			
			達成度	%	—	—	—			
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込			
	(独)国立長寿医療研究センターが施工する施設の整備		活動実績 (当初見込み)	件	1 (—)	1 (—)	1 (—)	1 (—)		
単位当たり コスト	(円/)		算出根拠							
平成 25・ 26 年度 予算 内 訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由						
	施設整備費	236	137	・教育研修棟新築整備事業の経費減(※国庫債務負担行為(3年)による事業の2年目)						
	計	236	137							

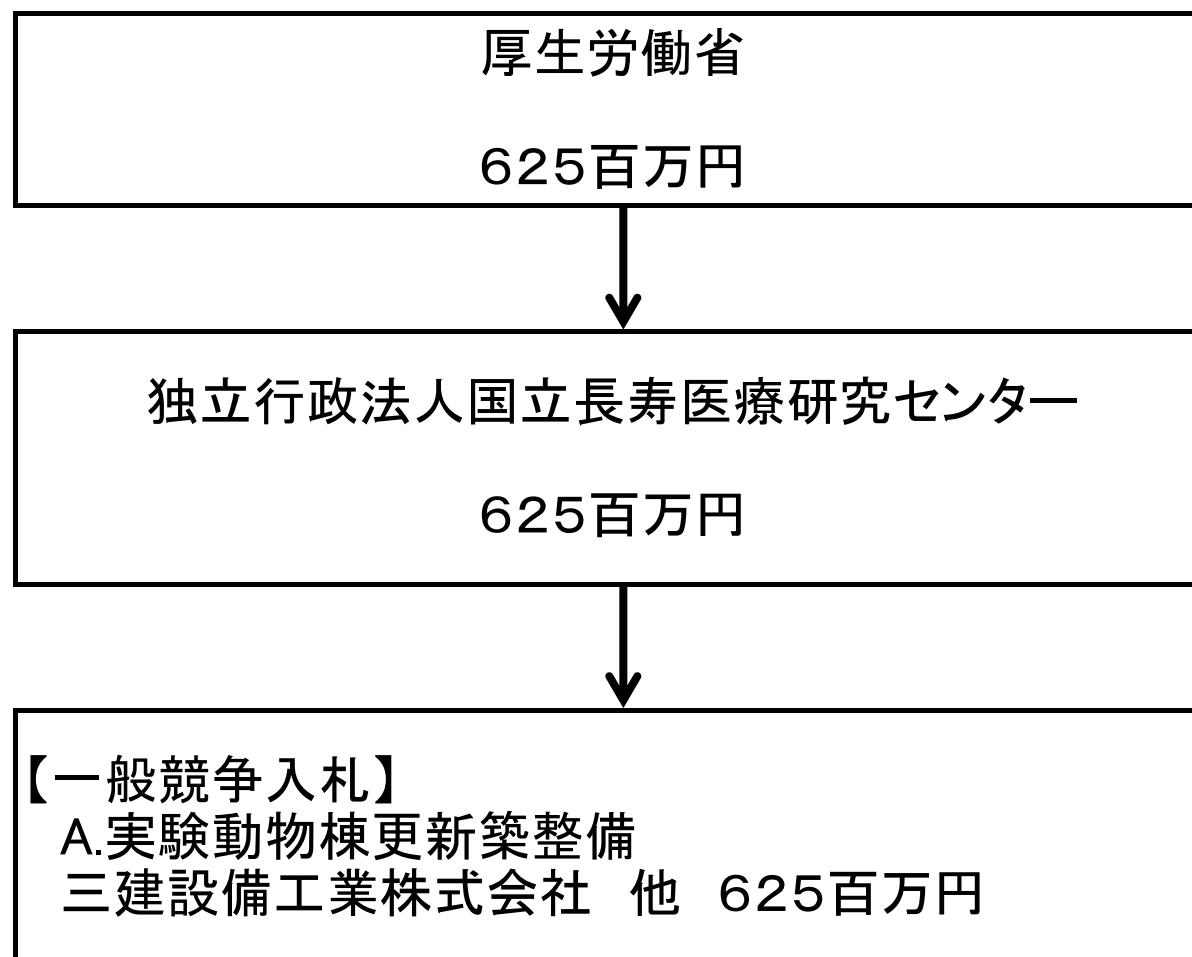
事業所管部局による点検							
	項目	評価	評価に関する説明				
国費 必要 投入 性の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	我が国の長寿医療の中核的機関として、加齢に伴う疾患に関し、研究・開発、医療提供、医療従事者の研修、情報発信、政策提言等を行っていることから、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	我が国の長寿医療の中核的機関として、加齢に伴う疾患に関し、研究・開発、医療提供、医療従事者の研修、情報発信、政策提言等を行っていることから、国が実施すべき事業である。				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○	我が国の長寿医療の中核的機関として、加齢に伴う疾患に関し、研究・開発、医療提供、医療従事者の研修、情報発信、政策提言等を行っていることから、優先度が高い事業である。				
事業 の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)を踏まえ、契約の徹底した適正化に取り組んでおり、競争性、透明性は確保されている。				
	受益者との負担関係は妥当であるか。	—	—				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	—	—				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—	—				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)を踏まえ、契約の徹底した適正化に取り組んでおり、競争性、透明性は確保されている。				
事業 の 有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—	—				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	—	—				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	—	—				
重複 排除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	整備された施設については、当センターの事業目的に沿って、活用されている。				
	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—	—				
	事業番号	類似事業名					
点検 結果	事業の目的や必要性等について、精査した結果、現段階では、特段問題ない。						
	外部有識者の所見						
点検対象外							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状 通り	独立行政法人国立長寿医療研究センター施設整備費については、センターの施設整備に要する経費の補助のためのものであり、必要性や執行の観点からの評価も概ね妥当であることから、引き続き効率的な執行に努めるべき。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状 通り	—						

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年	913	平成23年	905	平成24年	1034
-------	-----	-------	-----	-------	------

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三建設備工業株式会社	実験動物棟更新築整備工事(機械設備)	353	2	99.5%
2	佐藤工業株式会社	実験動物棟更新築整備工事(建築)	183	1	99.9%
3	株式会社トーエンック	実験動物棟更新築整備工事(電気)	80	2	96.2%
4	現代建築研究所・プラス共同企業体	実験動物棟更新築整備工事監理	8	1	98.8%